

平成25年度 第2回 美里町政策評価委員会

年 月 日	平成25年12月24日(火)
場 所	宮城大学大和キャンパス402号室
開 始 時 間	午前・午後 10時34分
出 席 委 員	委員長 徳永幸之 副委員長 西川正純 委員 塩野悦子 委員 古川隆
欠 席 委 員	なし
職務のため出席した者の職氏名	企画財政課長 須田政好 企画財政課係長 小林誠樹 企画財政課主事 澤村拓也
報告・協議事項	平成25年度評価の総括(中間・最終)について (1) 評価1「施策30働きながら子育てを行う家族を支援するための対策」について (2) 評価2「施策35活力ある園芸産地の育成」について (3) 評価3「施策45公共交通網を確保するための対策」について (4) 評価4「施策54住民参画と協働のまちづくりの推進」について
終 了 時 間	午前・午後 0時17分

【 次 第 】

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 協 議 平成25年度評価の総括(中間・最終)について
 - (1) 評価1「施策30働きながら子育てを行う家族を支援するための対策」について
 - (2) 評価2「施策35活力ある園芸産地の育成」について
 - (3) 評価3「施策45公共交通網を確保するための対策」について
 - (4) 評価4「施策54住民参画と協働のまちづくりの推進」について
- 4 その他
- 5 閉 会

1 開会

—午前10時34分 開会—

2 挨拶

(徳永委員長挨拶)

3 協議

徳永委員長 それでは、協議に入ります。
次第に従いまして、個別の評価についてそれぞれ説明をお願いします。

塩野委員 (資料1に基づいて説明)

徳永委員長 不動堂の放課後児童クラブの件ですが、駅東の住宅開発がもう落ち着いていて今後もこの数で大丈夫なのか、それとも子供の数はもっと増えていくのでしょうか。保育所の待機児童数とも関係することですが、見込みとしてはどうでしょうか。

小林係長 駅東の人口は震災後急速に増えつつありますが、まだ余力があることから今後も増加は続くと思います。ただ、ここ1、2年の伸び率は少し穏やかになってきている状況にあります。全体的な見直しというか、町が想定しているのは、これまでやってきたことはどちらかといえば改善的なことをしてきましたので、策定中の「子ども子育て支援計画」の方向性やビジョンを踏まえながら、いずれ大きく再編する時期が来るのではないかと考えています。

徳永委員長 そういった見通しは、担当課でも認識しているのでしょうか。

塩野委員 市町村単位で開催されている子ども子育て会議の場で細かく検討しているところで、各家庭にアンケート調査も実施しているところです。国としても、小規模保育所や保育ママの制度など多様な施策で市町村を後押ししているようですが、保育士が絶対的に不足している現状ではハード面が克服出来てもソフト面が補えないという厳しい実態があります。

徳永委員長 保育士の待遇改善として非常勤ではなく継続的に雇用することを考えると、児童数など長期的な見通しを立てて、長期に雇用していく部分と非常勤で対応していく部分のバランスを取っていくことが重要になってくると思いますので、そういった視点も付け加えたいと感じました。現状に合わせた対応をするだけでは、せっかく人数を増やしても後で空き

が出来てしまったり、非効率な結果になりかねません。

また、医療費助成の要望についてですが、他の市町村でも同じように悩まれて検討などされているのでしょうか。

塩野委員 宮城県内でも随分格差があって、乳幼児だけでなく中学生まで助成しているところもあります。県の助成が低いので、それに合わせてしまっているようなところもあるのかなと思いますので、もう一步踏み込んでいかないと、ここで子育てをしたいという気持ちにならないのかなと感じます。

徳永委員長 宮城県は全国的に見てどうなのでしょう。

塩野委員 宮城県は全国でも最低レベルに入っています。そこを改善しないと、なかなかこうした施策も向上しないと思います。

徳永委員長 県内の中でも市町村独自に行っている部分でかなり差があるということでしょうか。県全体として引き上げてもらえれば、美里としてはもっと拡充できるという考え方でよいでしょうか。

塩野委員 その通りです。

徳永委員長 了解しました。
先ほど私から要望を出させていただきましたが、そういった形で最終報告に向けてまとめていただければと思います。
それでは、引き続き西川委員の報告をお願いいたします。

西川委員 (資料2に基づいて説明)

古川委員 園芸と言うことで、バラの産地としての現状と展望が気になるのですが。

西川委員 バラについては、法人が1社と任意組織が3つあり約4haで栽培しているとのこと。バラフェスティバルや施設内の見学等も含めて様々な取組がされており、結婚式にバラの苗や花束をプレゼントするなど販路も拡大しているようなので、少し様子を見ていきたいと思っています。

バラについては付加価値を付けるという意味で、不要な部分を使って香料を作るというような事も考えていますが、町内にそういった作業が

できるところが無いので、環境を整えば進めていきたいと考えています。

徳永委員長 この施策の目標値は作付面積となっているわけですが、実績値を見ると平成24年度は前年より面積が減っています。その原因と今後の見通しをどう見えていますか。

西川委員 平成23年度と24年度を比較すると、若干ですが面積は減ってきています。ここにはニンジンの面積が入っていませんが、3.5haの作付があったということですので、それを加えると概ね目標を達成できたのではないかと思います。必ずしも面積だけで判断できない面もありますが、少しずつ新しい作物を含めて町として力を入れてきているので、そこは評価したいと思います。

振興作物が11品目あるので、もっと絞り込んでどこに重点を置くか明確にしても良いのかなと感じています。

徳永委員長 原因分析や見通しについて、あまり書かれていないような気がします。作付面積が減っているのは、後継者不足などの原因が考えられるのでしょうか。

西川委員 面積の減少分は、ニンジンなど新しい作物に取り組むことでカバーされていくと思いますが、理由についてはまだ細かく検討していません。

小林係長 取組自体が減ったということではなく、作付計画の中で若干の変動があったと判断しています。産地化に向けて、振興作物が11品目ある現状ではどれが強くてどれが弱いのかという話になってしまうので、担当課と調整を進めていきたいと思います。

徳永委員長 進行管理を行っていく上で、ここが重要だという位置付けを明確にしておくべきだと思います。後継者不足や意欲の低下という問題に対して、原因と対策を明確に示したほうが、取り組む側としても良いのではないのでしょうか。ちなみに、この施策の数値の中にデリシャスファームなどは入っていないのですか。

小林係長 この施策の目標値は土地利用型を念頭に置いていることから、デリシャスファームなどの施設園芸は含まれていません。美里町はほ場整備の進捗が他の自治体と比べて早く、転作率が3割以上という状況の中で土地利用型の産地形成を推進してきた背景があります。今後、減反政策が大幅に転換されることが不安材料となっています。

- 徳永委員長 施設園芸はどの施策に含まれるのでしょうか。
- 小林係長 園芸ですのでこの項目で良いのですが、目標値の部分には含めておりません。
- 西川委員 JAを介さないで取引するのは、なかなか難しいのでしょうか。農家として生産量の安定という面で厳しいことは認識しているのですが。
- 小林係長 まとまった生産量が無いことで、結局JA頼みになってしまうという現実があります。JAの経営の中でも、契約栽培を強化していただきたいのですが、各JAによって取組に温度差があり積極的なところとそうでないところがあるようです。
- 徳永委員長 他に意見はありませんか。
(質疑なし)
無ければ、続いて私から説明させていただきます。
(資料3に基づいて説明)
- 塩野委員 バスの町内路線が出来た際に、意向調査などはされたのでしょうか。また、それは何年前だったのでしょうか。
- 小林係長 合併後、平成19年度に再編計画を立て20年度から現在の体系で運行しています。期間も相当程度経過したことから、現状に合わせて新たな計画を立てていこうという段階になっています。
- 塩野委員 その時点では、利用者のニーズに合っていたという認識でしょうか。
- 小林係長 当初予定していた利用者数はクリアしてきたところですが、このところ路線毎に利用者が伸びているところと落ちているところがあり、内容の把握をもう一度行ったほうが良いと考えています。
- 徳永委員長 路線によってかなりバラつきがあり、1人2人しか乗っていないような路線もあるのが現実です。公共交通のあり方としては、1人でも依存している方がいれば運行しなければならないという考えもありますが、たとえば週に1回しか人が乗らないところに毎日バスを走らせる必要も無いと思います。
そうした理由から、デマンド化もやむを得ないと考えますが、デマン

ド化すれば経費が安くなるというものではなく、オペレーターを配置することでかえってコストがかかる場合もあり、そういった点を慎重に見極めていく必要があると思います。

塩野委員 具体的にどのような運行体制が考えられますか。

徳永委員長 利用したい人がタクシーを呼ぶ感覚で申し込んでいただくのですが、全くフリーとする方法やダイヤをある程度決めておいて乗りたい場所を予約してもらうなど、様々な方法が考えられます。

西川委員 利用者は病院や駅への足として、または買い物などに利用されているのでしょうか。

徳永委員長 買い物の足としての利用は、路線上に店があまり無いので少ないと思います。細かく分析はしていませんが、通院の利用者が多いことは明らかです。

他に意見はありませんか。

(質疑なし。)

それでは、古川委員から報告をお願いします。

古川委員 (資料4に基づいて説明)

徳永委員長 冒頭の「目標は未着手であり達成もできていない」とはかなり厳しい意見ですが、具体的にどういうことでしょうか。

古川委員 サマーレビューの結果を引用させていただいたのですが、具体的には、主要な目標に掲げられている事業について着手できなかったことを確認しています。地域活動サポートセンターなどと連携すれば、何らかの形にはできると思うので、関係者としてしっかり連絡調整をすれば解決できる問題だと考えています。

小林係長 担当課の考えとしては、仕組みを作りながら事業化を図っていきたいということで、その事業に合わせた目標値を設定することにしておりましたが、そのための取組が出来ていないということでサマーレビューで整理をさせていただきました。昨年、古川委員から具体的なアドバイスもいただいたのですが、それらの取組も実現できていないことから厳しい表現となっています。

徳永委員長 目標とする指標の考え方の意味が分かりにくい表現になっているように感じます。団体の活動を促進するための事業なのか、それとも団体から上がってくる提案を事業化するというものなののでしょうか。

小林係長 団体の方々などが課題解決に取り組めるような制度を作り、活動の推進に必要な部分を平成27年度までに整備していこうというもので、その成果を指標とするものです。

古川委員 これまでも町は各種団体に対して補助金を交付してきましたが、地域のための手挙げ方式で提案型の交付金制度を創設し、意欲のある人たちに地域の事業を展開してもらうことが理想だと考えています。しかし、現状では制度が出来ていないために手を挙げる人もいないという状況になっています。

徳永委員長 ここに挙げる事業とは具体的にどういったものなのでしょうか。

古川委員 既にある地域づくり支援事業も地域から上がってくる事業であり、考え方によってはここで言う事業ととらえることができるかと思います。

徳永委員長 冒頭の表現を工夫していただいて、何が問題なのかをもう少し分かりやすく書いていただきたいと思います。目標に未着手のままでは当然達成できないのでその表現は無くても良いと思いますので、提案される事業数を増やすために何をすべきか、はっきり示しておいたほうが担当課としても取り組みやすいのではないのでしょうか。

他に意見はありませんか。

(質疑なし。)

ひととおり各委員から報告していただきましたが、全体を通じて意見や質問はありませんか。

(質疑なし。)

本日いただいた意見やコメントなどをそれぞれの報告書に反映させて、最終報告書としてまとめたいと思います。事務局に修正の原案を作ってください、各先生にご確認いただくという形でよろしいでしょうか。

小林係長 (指摘事項の確認)

本日の指摘事項を受けて、最終という形で報告書を作成させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

徳永委員長 最後に「4 その他」ということで、何かありませんか。

小林係長 (町長への提出日の確認)
(美里町政策推進・評価委員会条例設置の報告)
(まちづくりコンテストの実施について)

徳永委員長 その他質疑がなければ、以上で協議を終了します。

6 閉会

—午後 0時17分 閉会—

記録者 : 企画財政課 澤村 拓也